

APP 環境新聞

発行日 2022年6月8日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



植樹エリアの空撮写真

森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<4>

エイピーピー・ジャパン株式会社 (APPジャパン) は、売上の一部をベランタラ環境保護基金に寄付してインドネシアの森を再生する「森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~」を行っています。



植樹の様子(2021年10月)

本プロジェクトが行われているスマトラ島のギアム・シアク・ケチル=ブキット・バツ (GSK-BB) 生物圏保護区は、野生のスマトラゾウやスマトラトラが生息する森林です。プロジェクト開始から約2年が経ち、パンデミックなどさまざまな困難に直面しつつも、全体としては順調に進展しています。

今年、植樹面積の年間目標を15ヘクタール(ha)から30haに拡大しました。とはいえ、約2割の苗が植えた後に枯れてしまうため、モニタリングとメンテナンスが欠かせません。

このプロジェクトでは、定点観測地を定め、その地点に植えた苗の成長を毎年記録しています。2021年秋には、ドローンを使った空撮と植生分析により、同年1月に植えた植樹エリア5haのモニタリングを行いました。空撮写真ではまだ目に見える成果は確認できませんが、周囲と変わらない自然林に成長するには、最低で5年はかかります。

また同年11月、次の植樹エリアの選定に向けて3つの候補地を調査し、前期植樹エリアに隣接するBBHA社 (APPグループ林業会社) 管理区域内の12haを採用しました。

翌2022年1月には、ゲロンガン (オトギリソウ科)、ロフォステモン (フトモモ科)、ラミン (ジンチョウゲ科) の3種類、計1万本の苗を調達しました。調達した苗は、枯れてしまった苗の植え替えを含め、3月までにすべて植えました。

さらに1月25日には、ユネスコ・インドネシア支部を始めとするGSK-BB生物圏保護区関係者が集い、保護区内での様々な取り組みの活動報告会が開催されました。ベランタラ環境保護基金のドリー事務局長は、その席で「森の再生プロジェクト」の進捗について報告しました。<次号報告に続く>

APP、第11回SAFを開催

6月23日、APP本社が第11回ステークホルダー・アドバイザリ・フォーラム (SAF) を開催します。

SAFとは、様々なステークホルダー (メディア、専門家、環境NGO、政府関係者、取引先など) に自由にご参加いただいて、APPのサステナビリティ取り組みについて進捗報告と意見交換を行うフォーラムです。

この会は、2013年の森林保護方針発表以来、継続して開催されており、2020年からは年1回のオンライン開催となっています。参加ご希望の方には事前登録のURLをお知らせしますので、ぜひお問い合わせください。

APP 第11回 SAF
2022年6月23日 (木)
12:00 - 14:00 (日本時間)
10:00 - 12:00 (ジャカルタ時間)
Zoomによるオンライン開催
(英語/事前登録制/参加無料)

「ありがとうカード」をお届けしました ~今年から印刷用紙・産業用紙のお客様にも~

「森の再生プロジェクト」では、対象商品のご購入を通じて大きな貢献をしてくださったお客様に感謝状をお届けしています。昨年9月から新たに対象商品に加わった印刷用紙と産業用紙のお客様にも、先日、感謝状をお渡ししました。

その中の1社、株式会社ハローバッグ様はペーパーバッグの総合メーカーで、当社の片面コート紙を使っただいており、PEFC認証の手提げ袋を作ることができます。袋のひもを主に紙素材に替えて脱プラに取り組んだり、地元の銀行が主導するSDGs宣言に参加を申請するなど、積極的に環境経営を実践されていて、当社の紙を使った紙袋には「森の再生プロジェクト」ロゴを掲載していきたい、と仰ってくださいました。コピー用紙から始まった本プロジェクトですが、今後は様々な紙製品に展開し、さらに多くの方に認知をしていただければと思っています。



左: (株)ハローバッグ 社長 遠藤様
右: APPジャパン(株) 山崎

「グローバル・ライフ」授業を通じて高校生160名と意見交換

4月26日、筑波大学附属坂戸高等学校2022年度新入生160名が一堂に受講する「グローバル・ライフ」授業の一部を、当社サステナビリティ・コーポレートコミュニケーション本部シニアマネージャーの山崎が担当しました。

「国際企業の現場の声をぜひ生徒たちに」と声をかけてくださった建元喜寿教諭は、インドネシアのJICA海外協力隊の活動を経て教鞭を執られ、国際教育やESD(持続可能な開発のための教育)推進に尽くされています。コロナ禍前には生徒の皆さんとともにインドネシアのフィールドワークを精力的に実施され、APPの工場や植林地へも来ていただきました。この現地訪問を機に、3年前には坂戸高校の生徒の皆さんにAPPジャパンの東京オフィスを訪問いただき、当社の活動や商品開発について鋭いご意見を頂戴するなど、交流を深めています。

今回は、当社が取り組む森林保全を約束した資源循環型ビ

ジネスモデルの背景と現状について、また、当社が取得している森林認証PEFCとFSCの基準の比較、現地住民を支援する森林火災防止のための地域活性化(DMPA)プログラムの現地情報を紹介しました。

発表後のアンケートでは、「日本とインドネシアの森林保護の違いは何か?」「環境保全のために個人でできることは何か?」「焼き畑のような地域文化をなくすことは良いことなのか?」など、率直な質問をお寄せいただき、後日、回答いたしました。



高校1年生を対象にした「グローバル・ライフ」授業の様子

APPサステナビリティ担当役員インタビュー記事が日経ESG 4月号に

『日経ESG 2022年4月号』に、APPの持続可能性およびステークホルダーエンゲージメント担当役員エリム・スリタバのインタビュー記事が掲載されました。

エリムは記事の中で、APPがインドネシアで行っている自然林を伐採しない製品づくりや、日本支社APPジャパンが行っている「森の再生プロジェクト」、住民支援を通じた森林保全活動である森林火災防止のための地域活性化(DMPA)プログラムについて語っています。

喫緊の課題である脱炭素。各国が掲げるカーボンニュートラル目標を達成するには、森林によるCO₂の吸収が欠かせません。APPはその森林を守るためにさまざまな取り組みを行っています。くわしくは下記URLをご覧ください:

サステナビリティ関連ライブラリ:

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>

日経ESG4月号:

<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00006/030700135/>



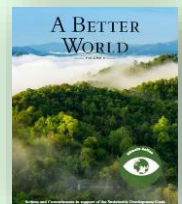
国連SDGs広報誌にAPPの記事が掲載される

国連SDGs広報誌『A Better World Vol.8』に、APP本社の寄稿記事が掲載されました。『A Better World』は、国連関連の出版を手掛けるHuman Development ForumというNGOによって、SDGsの啓蒙を目的として2016年より刊行されており、毎号17個の目標のうちの1つの目標に関連した政府や企業の取り組みを紹介しています。今回のVol.8では、SDGs13番「気候変動に具体的な対策を」に関連した記事が集められています。

APPの寄稿記事では、パリ協定とインドネシア政府が定めたCO₂排出削減目標に触れ、その目標達成を支援するためにAPPが行っている広大な森林を保護する取り組みの事例を紹介しています。衛星画像による森林モニタリングや森林火災防止のための地域活性化(DMPA)プログラムなど、取り組みの詳細は下記リンクからご覧ください:

(英文/APP記事は50-52ページ)

<https://www.humandevopmentforum.org/digital/A-Better-World-Vol-8/50/index.html>



JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2022に出展します!

8月25日(木)~27日(土)、住生活に関する日本最大級の展示会が幕張メッセで開催されます。APPジャパンとユニバーサル・ペーパー株式会社もインドネシア・パピリオンの一部として参加。SDGs達成に向けた取り組みを紹介し、木材原料として植林木を100%使用したインドネシア製のコピー用紙やティッシュ・ペーパーなど、環境にやさしい製品を展示します。



森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」対象紙製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方 → APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)